

京都スキー協議会第51回総会 書面表決に 全議案を可決・新役員、予算も決定

8月2日に予定されていた京都スキー協第51回総会は、コロナ感染者が京都でも増えている中で書面による表決となり、代議員16人の内14人が参加、活動報告など全議案が賛成13人、反対1人で可決されました。表決書に設けられた意見欄には、下記のような意見・要望等が出されましたので紹介します。運営委員会では、問題点について引き続き議論をしていく事を確認しました。

【議案】

- ①2019年度活動報告・2020年度活動方針
- ②2019年度決算報告・2020年度予算
- ③京都スキー協議会規約の改正
- ④2020年度第51期・京都スキー協議会運営委員と会計監査の選出

【意見等】

- スキーツアーの為に、コロナの早期収束を願うばかりです。
- 新型コロナウイルスの感染ができるだけ早くおさまって、来年のスキーツアーが開催できるように願います。
- 年々雪不足やこの間の新型コロナウイルス感染の心配はありますが、来シーズンも安全に配慮しつつ、スキー協の行事が予定どおりに行われることを願っています。
- 心配な点 ①行事参加人数。バス乗車人数に制限があると増便？参加費が高くなる。バスと乗用車に分けて現地集合にする。②木曾福島スキー場が閉鎖にならないか心配です。

【規約改定についての意見】

- 採決は無効、規約改定案は上程すべきではなかった。2年間連続の暴挙である。議論を再開すべきである。

そもそも52期定期総会は、規約にも運営規定にも何ら規定されていない「書面表決」なる方法を持って極めて重大な改定案を一切の議論ない多数決のみで強行採決を行うものである。いくつかの反対意見や、問題提起に耳をかさず、議案の提案報告にも一切反映することなく一方的にスキー協運営委員会の検討と問答無用の「決議」で若干の手直しで提案してきた。反対意見や修正案も提起する手立てもなしに問答無用の強行採決となった。

「新規約の本質がもろに体现されたものであった。」運営委員会が第二の決議機関だと！
そもそも、従来の規約では現状に合わない古い内容と形式であることが確認され数年に及ぶ委員会での検討を経て、これから組織的な検討討議に入る所であった。突然、ちゃぶ台返しで執行部で原案作成ということになったが、その結末が、この間のお粗末な経過である。私たちはいろいろな場合を検討し、書面採決などという運営規定も想定してきていたが、そこの「いいとこ取り」だけして、コロナのどさくさ紛れに汚い手口で強行採決することは、この間の京都スキー協の歴史に泥をぬり重ねることになったことを知るべきである。採決は断固として「無効」であり運営委員会決定「規約」なるものは未だ案に過ぎない。コロナにも対応できないような規約でさらに何ら新しい提案もされのような規約案では話になりません。どさくさ紛れに間違ったことを決め、思惑通りに運営委員会が第2の決議だという組織運営を重ねることはやめていただきたい。何の為に規約改定が課題となったのか？

○会則の承認は紙上総会には馴染まないと思います。

できればコロナが収束して、みんなで集まれるようになってからでもいいのではないのでしょうか。私の規約に関する考えはいろいろあります、多数決に従うのは当然ですが、この会の目的が自分の考えと異なる場合は残念ながらそこを曲げてまで多数決に従う事は出来ません。

(改訂案の)「(目的) 第2条

この会は、全国勤労者スキー協議会に加盟し、日本の自主的、民主的スノースポーツ活動の発展に寄与することを目的とする。

2 この会は、新日本スポーツ連盟京都府連盟に加盟し、その種目組織として活動し、スポーツの民主的発展に貢献することを目的とする」は、非常に息苦しいです。

私の考えは、「スノースポーツ文化の普及と発展をはかり、広く愛好者と友好・交流・連帯を深め平和な社会への一翼を担うことを目的とする」で、憲法やスポーツ基本法等持ち出さなくともと考えます。

《 2020年度の役員体制 》

- 運営委員長 : 小山 孝夫(モネ)・再
- 副運営委員長 : 森田 英二(森の会)・再(技術・指導員部長)
- 副運営委員長 : 星 幸敏 (雪おこし)・再
- 事務局 長 : 荒川 邦博(モネ)・再(機関紙部長)

《 運営委員・専門部担当 》

- | | | | |
|----------------|---------|----------------|--------|
| ○早川 雅博 シティ | 企画部長 | ○坂下 和修 バーデイカル | 競技部長 |
| ○星 正雄 望峰 | 山スキー部長 | ○藤井 努 バーデイカル | 安全対策部長 |
| ○矢吹 明弘 森の会 | 企画部 | ○羽賀 美恵子 かぶりこ〜ん | 会 計 |
| ○浅野 輝男 ハッピーターン | 技術・指導員部 | ○和田 三郎 WEスキー | (新) |
| ○中島 剛 シティ | 会計監査 | ○三上 愛子 森の会 | 会計監査 |

2020～2021シーズンに向けて オフトレを楽しもう

テニス例会に取り組みました。

(雪おこし通信No.79)



左から 丸山 高岡 石田 中村 星の各氏

7月2日の午後、梅雨の中休みの曇り空でしたが、岩滝の城山公園テニスコートでテニス例会に取り組みました。

参加者は、石田さん、中村さん、井上さん、高岡さん、丸山さん、星の6名でした。予定を楽しみにされていた瀬戸さんは急用が出来て参加出来ず残念でした。

私は少し遅れて2時頃に到着したので、その時は珍しく、高岡さんと丸山さんがシングルで対戦中でした。今日はシングルかと思いながら入っていくと、そうではなくて、一通り暖まったので休憩中とのことでした。

早速、6名でダブルスの試合を楽しみました。一人が審判、一人が休憩、4人がプレーをします。2セットマッチで行い、終了すると審判した人が順番でコートに入ります。6ゲームが終了すると1クールが終わり休憩です。1クールは結構充実したものでした。

6月のテニス例会が雨の為に中止になっていたため、皆さん結構気合いが入っていたのかも

知れません。若干空回りの所も有りましたが、何せそこは高齢者、それもお愛敬です。井上さんの鋭いサーブや頭脳的な石田さんのプレーは健在でした。丸山さんは一層肩の力を上手く抜いて打てるようになっていました。

休憩中の話題はやはりコロナでした。東京で100名を超えたこともあって、関心は高かったです。今日は合計3クールを楽しみ、4時30分頃には片付けに入りました。久しぶりのテニスをみんな楽しめました。(星)



森の会・総会 コロナ禍注意しながら カラオケ・ハイキング・オフトレの再開も

森の会は7月12日に総会を開き、第1回の月例会を8月19日に行ない、スキー協からの報告と秋のオフトレなどの計画をしました。

カラオケ委員会は、原田委員長がコロナ禍の様子をみながら、とりあえず毎月第1火曜日の開催を継続します。ハイキング同好会も月1回、丸谷さんを中心にして9月13日から再開します。オフトレは9月から11月の間、第2・4火曜日19時から山科体育館ジムコーナーに設置のマシンを使って行います。 早めに行って自主トレすることは自由です。1回310円の利用料は自己負担。

正月スキーも1月1日から4日で計画しますが、コロナの影響や車の配車など具体的な段取りはこれからです。

9月26日の関西ブロック学習交流会には現在3人(森田、矢吹、平岡和)が参加予定です。

(森の会通信8月号抜粋)

